

H19年度土壤汚染対策法施行状況等に関する 調査結果について



環境省は平成21年1月30日、平成19年度の土壤汚染対策法の施行状況及び土壤汚染調査・対策事例等に関する調査結果について公表しました。

都道府県・政令市が把握している昭和50年度から平成19年度までの土壤汚染調査の事例は、累計で7,595件であり、うち土壤環境基準又は指定基準に適合しない事例は、累計で4,006件でした。尚、平成19年度の調査事例は1,371件で、うち超過事例は732件、そのうち法対象は81件でした。

これまでの超過事例4,006件について特定有害物質の種類をみると、揮発性有機化合物(VOC)(第1種特定有害物質)ではトリクロロエチレンが最も多く629件、次いでテトラクロロエチレン(551件)、シス-1,2-ジクロロエチレン(445件)の順に多く、また重金属等(第2種特定有害物質)では鉛が最も多く1,928件、次いで砒素(1,049件)、ふっ素(992件)の順に多い結果でした。

これらの汚染対策の実施内容については、重金属等では掘削除去を実施している事例がほとんどでしたが、VOC超過事例では原位置浄化(地下水揚水、化学的分解等)の方が掘削除去を上回る結果でした。

また、平成19年度における土壤汚染対策法の施行状況は、法第3条及び第4条に基づく土壤汚染状況調査の報告件数が243件、うち指定区域に指定された件数が81件で、平成19年度末時点での指定区域数は137件でした。

当社では、土壤汚染調査や土壤の分析を行っております。お気軽にお問い合わせ下さい。

資料 2009年1月30日付 環境省ホームページ

土壤環境箇所 明石康伸